



編集・発行 北海道立生涯学習推進センター
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7 8階 電話 011-204-5781 FAX 011-261-7431
 E-mail kensyu@manabi.pref.hokkaido.jp ホームページアドレス <https://manabi.pref.hokkaido.jp/>

平成29年度 北海道社会教育セミナー終了>>>>>

<研究テーマ> 「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」 ～「学び」と「活動」の循環を促すための方策について～

平成29年6月1日(木)～2日(金)に、道民活動センタービル(かでの2・7)を会場に、「平成29年度北海道社会教育セミナー」を開催しました。道内の市町村教育委員会担当職員、社会教育関連施設職員、生涯学習・社会教育関係団体職員、地域コーディネーター、生涯学習に関わる道民など264名が参加し、「学び」と「活動」をつなぎ、循環させるための方策について研修を深めました。本号では、講義や講演、協議におけるポイントを御紹介します。

【テーマ説明】 「北海道における社会教育・生涯学習のために」

★説明者：道立生涯学習推進センター主査
 尾山 清龍

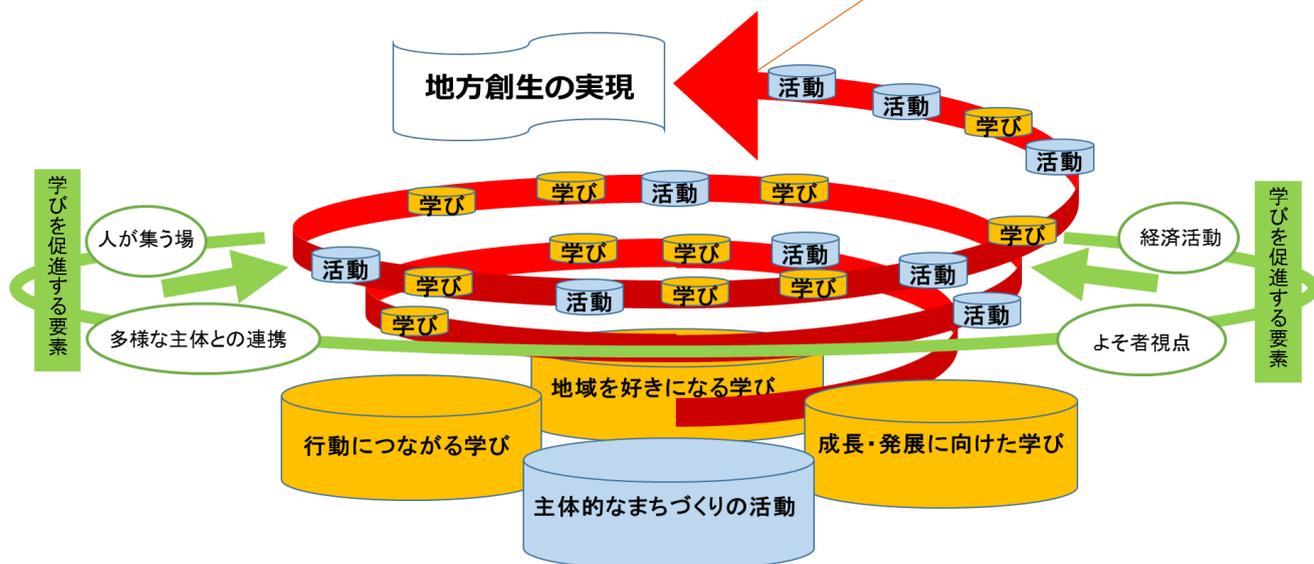
今年度から2か年にわたる研究テーマを「地方創生の時代における社会教育行政の在り方～『学び』と『活動』の循環を促すための方策について～」と設定し、「『学び』と『主体的な活動』の具体的な内容の整理」と「『学び』と『主体的な活動』をつなぎ、循環させる具体的方策の検討・協議」について取り組むこととしました。

H27～28年度研究の成果

- ◆持続可能な地域づくりに資する学びと学びを促進する要素の提示
- ・「学び」の3つのプロセス
- ・「学び」を促進する4つの要素

※詳しくは、道立生涯学習推進センター調査研究報告書(第40号)27ページを参照してください。

今回の社会教育セミナーでは、H27～28年度研究の成果を踏まえ、「学び」と「活動」をつなぐためにはどのような方策があるのか、社会教育行政からの具体的な働きかけや支援等について協議することとしました。



研究テーマに関わる構造図(北海道立生涯学習推進センター作成)

【基調講義】「地方創生の時代における社会教育行政の在り方」
 ~人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて~

★講師：文部科学省生涯学習政策局社会教育官 石丸 成人 氏

◆ **社会教育を取り巻く環境の変化**

- ◆ **社会教育に期待される3つの役割**
 - ・地域コミュニティの維持・活性化への貢献
 - ・社会的包摂（地域とのつながりづくり）への寄与
 - ・社会変化に対応した学習機会の提供

- ◆ **今後の社会教育の2つの方向性**
 - ・官民パートナーシップによる社会教育の推進（多様な主体との連携・協働の推進）
 - ・持続可能な社会教育システムの構築（社会教育分野への官民の教育投資の促進）

【パネルディスカッション】「地域における『学び』と『活動』のつながりについて」

まとめ

コーディネーター：北海道大学大学院教育学研究院教授 宮崎 隆志 氏
 パネリスト：うらほろスタイル推進地域協議会子どもの想い実現ワークショップ
 座長・浦幌町社会教育委員 高室 智全 氏
 ・小樽市教育支援活動推進事業運営委員会コーディネーター 中川 めぐみ 氏
 ・芦別市立図書館管理係長（司書） 藤田 伊津子 氏

パネリストからの発言ポイント

子どもと大人が真剣に向き合いコミュニケーションをとる「回路」をつくる。

高室氏

大人が子どもから学び、ともに育ち合い学び合う循環をつくる。

中川氏

図書館だけではできないことは市の他のセクションと連携し、市だけではできないことは市外の方々と連携する。

藤田氏

「学び」と「活動」のつながりのために・・・

- ◆子ども（=地域の未来）と地域の大人が向き合う場の設定
- ◆大人と子どもの居場所をつくることのできる学びの提供
- ◆課題を地域全体に広げるための仕掛けづくり
- ◆活動への参加の障壁を低くすることが必要

宮崎氏

【研究協議】「『学び』と『活動』をつなげる方策について」

- ・第1分科会：社会教育主事、生涯学習・社会教育行政担当者
 講義「社会教育主事の今日的役割」
 北海道大学大学院教育学研究院教授 宮崎 隆志 氏
- ・第2分科会：社会教育委員、生涯学習審議会委員等
- ・第3分科会：生涯学習・社会教育施設職員等
- ・第4分科会：地域コーディネーター等
- ・第5分科会：図書館司書、図書館職員等

講義「社会教育主事の今日的役割」

- ◎「あなたの困りごとは社会教育実践を進めていくためのみんなの宝物」と捉える！！
- 《社会教育主事に求められる役割》
- ◆住民や学習者のもつ深い困りごとの把握
- ◆問題を共有する仲間集団の形成
- ◆実践に挑む当事者たちの活動を支える学習の支援

「学び」と「活動」をつなぐ具体的方策 <分科会で出された意見から抜粋>

- ・仲間意識の醸成（共に〇〇する等） ・町内会の常会に顔を出す ・雑談ができる関係性の構築
- ・組織の看板を背負わない自由な発想を引き出す ・ライングループをつくる ・少人数の茶話会の場の設定
- ・地域の知り合いをつくる取組 ・頼りにされるようスキルを磨く ・地域の団体の活動を見に行く
- ・中心になって動くことのできるメンバー（青年団・青年部等）へのアプローチ ・自治会の活動に参加 等

【講演】「『学び』の専門職を考えるー住民の主体的な学びを促すコーディネーター」

★講師：東京大学大学院教育学研究科教授 牧野 篤 氏

地域住民

自分たちで地域をつくり、経営していくことを考えていかなければならない時代

住民同士のゆるやかなつながり、社会に対する信頼感等 が必要

《支援の内容》

- ・住民の「学び」の組織化
- ・住民の声を聞き取り対話として還す
- ・行政課題を練り上げ課題解決へと導く

行政・社会教育・生涯学習関係者

- ・住民の地域経営を支える黒衣
- ・学びの専門職として支援

※学びの専門職とは、地域住民の言葉にならない感情や日常生活上の課題等を言語化・可視化し「学び」を組織化できる人材